

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 新検見川教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
児童の発達レベルに応じた支援内容を考え、実行できていること	お子様それぞれでできること・できそうなこと・チャレンジしてほしいことなどと、1つのプログラム内容の中で細かく目標を設定することで、成功体験を積めるための準備に取り組んでいます。	次のステップとして、必要に応じて、お子様自身が目標としたいことが設定できるようになることを目指し、職員が伴走する形で支援ができるよう、お子様の成長による変化に対応できるように努めています。
多種多様なプログラムの実施	製作では、作って終わりではなく遊んで楽しむことができる作品作りを提供し、季節の行事にも触れることで社会性も身につく内容を重要視しています。 学休日には、お出かけや料理プログラムを実施することで、初体験や楽しかった、またやりたいと思っていただけるような機会を提供しています。	保護者や児童からもプログラム案を募り、実施を検討していきます。
支援内容について、保護者や関係機関と定期的に情報共有を行っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様とは、送迎時・電話・LINE・HUGにて日次で気軽に相談していただけるよう各種媒体を整備し、相談が円滑に行われるよう工夫しています。 ・モニタリング時のみならず、電話連絡をはじめとした日々の連絡体制においても、意見や要望を受け止め、支援に反映できるよう努めています。 ・学校やご家庭内での様子からも支援内容に活かすよう、職員間での共有に努めています。 	必要に応じて、拠点で使用している対応フローチャート、ガイドライン、マニュアルの内容を保護者へも周知し、安心感向上につなげます。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
クールダウンスペースが確保されていないこと	利用児童の特性に応じた個別対応の必要性は認識しているものの、教室の構造やスペースの制約により、気持ちを落ち着かせるための専用スペースを十分に確保できていない状況があります。	既存の教室レイアウトや備品配置を見直し、一時的にでも安心して過ごせる空間を確保する工夫を行います。 また、クールダウンの必要性や活用方法について職員間で共通認識を持ち、状況に応じた環境調整ができる体制を整えることで、児童の自己調整力の向上と安全な支援につなげていきます。
壁の汚れ、剥がれ	日常的な清掃や安全確認は実施しているものの、施設環境を「支援の質の一部」として捉える視点が十分に共有されていなかったことが要因と考えています。	教室環境も支援の一環であるという共通認識を持ち、定期的な環境点検の仕組み化を行います。 あわせて、軽微な補修については早期対応できる体制を整え、計画的な修繕を進めることで、来訪者が安心感を持てる環境づくりを行っていきます。
事業所の通信・情報発信が不定期になっていること	情報発信が属人的かつ、後回しになりやすい体制となっていました。 その結果、活動内容や支援の意図が十分に共有できず、保護者にとって事業所の取り組みが見えにくい状況を生んでしまいました。	情報発信を「付随業務」ではなく支援の説明責任の一部として位置づけ、発信頻度や内容の目安を設けられるよう、事業所内で検討します。 また、職員間で役割を分担し、無理のない形で継続できる仕組みを整えることで、活動の可視化と信頼関係の構築につなげていきます。